平成 30 年度
太田市住民協議会 報告書
「ごみの減量化」

平成３１年２月１日

太田市住民協議会

目次

１．はじめに 2
２．住民協議会概要 3
３．委員が考える課題の概要 5
４．行政の実施を期待する取組 6
５．「一人一人がやっていくこと」「地域でやっていくこと」 8
６．「改善提案シート」まとめ 9
７．「行政の実施を期待する取組」、コーディネーター提案・委員からの評価コメント詳細 16
（１）分科会の議論から挙げられる「行政の実施を期待する取組」（コーディネーター提案）
..... 16
（２）「行政の実施を期待する取組」について委員からの評価とコメント
..... 20
８．付録：アンケート結果 36
９．付録：改善提案シート 41

（議論の様子）

１．はじめに

太田市長　清水聖義　様

昨年７月、酷暑の中はじまった住民協議会、１１月まで月に一度、５回にわたり議論しました。この報告書はその議論の経過や結果をまとめたものです。

今年度の住民協議会で議論したテーマは「ごみの減量化」でした。
群馬県の一人一日当たりの生活系収集可燃ごみの排出量は全国で３年連続ワースト１、私たちの住む太田市は県内では１５番目ですが、全国的に見るとごみの排出量が多いということを、協議会初回に太田市清掃事業課から説明され、驚きとともに太田市の厳しい現状を認識しました。
第２回、第３回は、「ごみ減量化」を進める上での課題を挙げてくとともに、それらを解決するために、まずは個人として何ができるか、次に地域として何ができるか、そして行政は何をすべきかについて議論しました。
これらの課題や解決策について、第４回は行政の取組を期待すること、第５回は個人や地域がすべきこと、それぞれの優先度をつける議論を行いました。

今回の議論を経て、私たちが確信しているのは、ごみの課題が太田市民一人一人にとって「自分ごと」となれば、「ごみ減量化」は必ず実現するということです。
ごみに占める「雑がみ」の比率が高いため、いかにして「雑がみ」を資源化するか議論しました。具体的に出てきたアイデアを、各回の間にそれぞれの家庭で実践し、実際にごみが減ったことを協議会で報告した委員が何人もいました。
私たちは協議会に参加した当初、特別「ごみの減量化」に関心が高かったわけではありません。住民協議会で議論を重ね、太田市のごみの課題に関心を持ち、「自分ごと」となったことが、私たちの行動の変化、そして家庭内での「ごみの減量化」につながったのです。

このような議論の場を設けてくださった市長をはじめ太田市職員の皆さんに御礼を申し上げるとともに、さらに多くの太田市民にとって「ごみの減量化」が「自分ごと」となるよう、今回の議論の中で出た意見や提案を参考にしていただけたら幸甚です。

平成３１年２月１日
太田市住民協議会

２．住民協議会概要

昨年度に続き、２度目となる、平成 30 年度「住民協議会」を実施した。
委員、テーマ及び各回の議論は以下のとおりである。

○委員・コーディネーター・ナビゲーター

無作為に抽出し協議会委員の案内を送付した数	1300 件
応募した委員（応募率）	51 人（3.9%）
各分科会の委員の数　※応募後、参加した委員 ・第 1 分科会 ・第 2 分科会	42 人 21 人 21 人

第1分科会	分科会長　大槻 昌子	代理者　渡部 由夫	委員　大槻 菜々子
	委員　小沢 直毅	委員　金谷 嘉則	委員　木村 ひさえ
	委員　栗原 孝憲	委員　栗原 直子	委員　篠木 きよみ
	委員　菅野 真理子	委員　菅原 史夫	委員　杉田 洋一
	委員　高桑 金次郎	委員　多田 幸子	委員　田平 和清
	委員　塚越 聖亜	委員　中松 晴子	委員　深町 五男
	委員　星野 友葵	委員　町田 初代	委員　吉橋 久夫
第2分科会	分科会長　吉田 昭義	代理者　髙栁 良一	委員　新井 雪
	委員　岡村 千惠子	委員　加藤 英貴	委員　金田 雄一
	委員　熊木 由美子	委員　齊藤 真利子	委員　須賀 昌夫
	委員　鈴木 和江	委員　鈴木 研司	委員　津久井 陽夫
	委員　辻 亘	委員　永井 久美子	委員　中根 啓子
	委員　中山 妙子	委員　名和 保幸	委員　野村 萌絵
	委員　橋本 夏葵	委員　廣瀬 絹枝	委員　丸岡 和生

構想日本

＜コーディネーター（議論の整理役）＞

・田中 俊　　（構想日本　政策スタッフ）　　【第１分科会】
・高澤 良英　（市原市総務部次長）　　【第２分科会】

＜ナビゲーター（論点の提示役）＞（第 3 回のみ参加）

・大久保 泰孝（小金井市環境部ごみ対策課減量推進係長）【第１分科会】
・片亀 光　　（環境カウンセラー/３R 推進マイスター）【第２分科会】

〇テーマ及び各回の議論

テーマ：「ごみの減量化」

開催日：

・第１回会議：平成 30 年　7 月 14 日（土）

・第２回会議：平成 30 年　8 月 18 日（土）

・第３回会議：平成 30 年　9 月 29 日（土）

・第４回会議：平成 30 年 10 月 21 日（日）

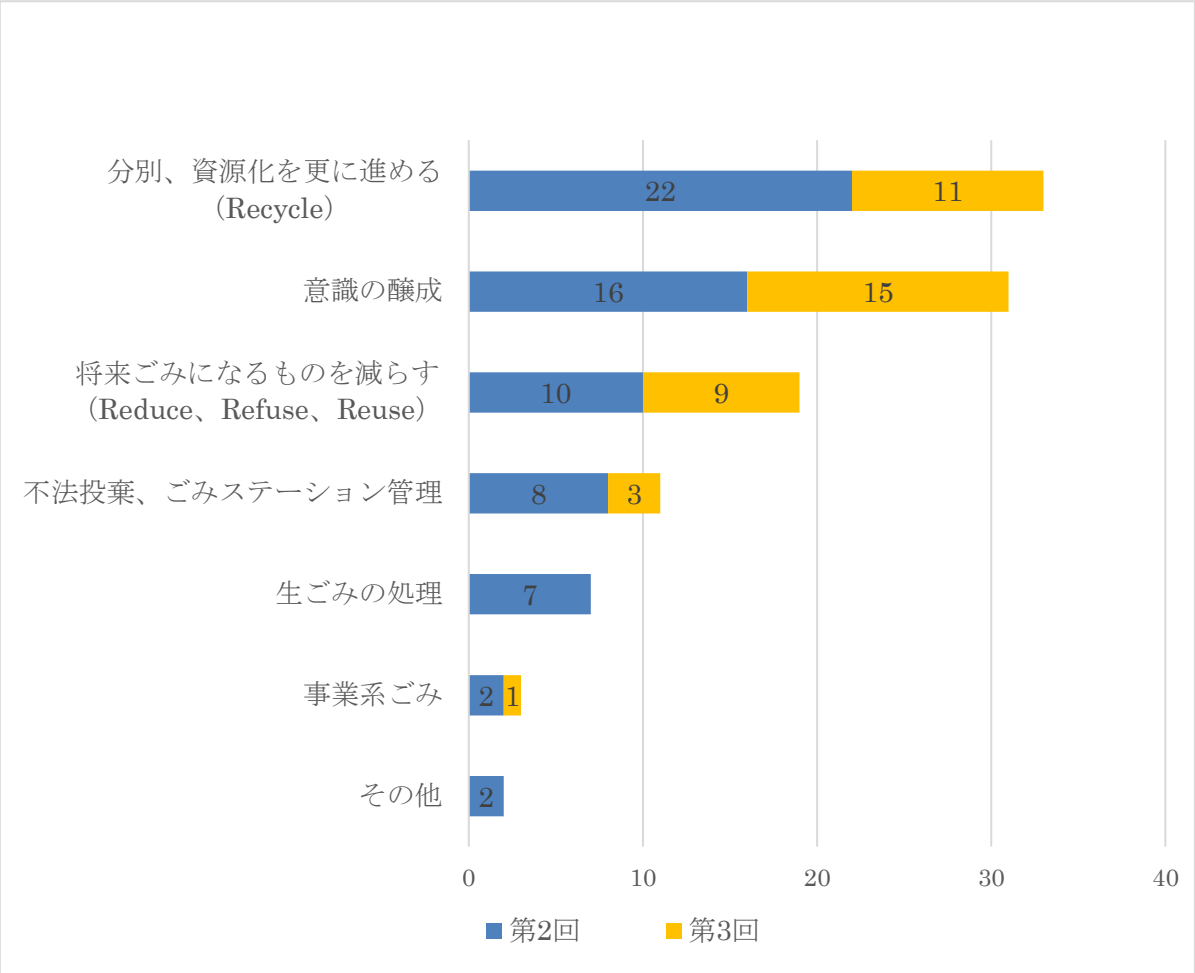
・第５回会議：平成 30 年 11 月 17 日（土）

議論の流れ：

現状の把握	＜第１回＞ 太田市のごみの総排出量や処理にかかるコストなどについて、清掃事業課から説明 委員が生活の中で感じているごみについての工夫や課題などの共有
課題や解決策について議論	＜第２、３回＞ 委員が生活の中で感じている課題をもとに、その解決策を①個人ができること、②地域ができること、③行政の取組を期待することの順に考え、議論。
集約、まとめ	＜第４、５回＞ 第３回までに出た①個人ができること、②地域ができること、③行政がすべきことの優先順位付けを行った。

３．委員が考える課題の概要

第 2 回会議および第 3 回会議で各分科会においてごみの減量化についての課題およびその解決策を議論し、「改善提案シート」（付録参照）に記載した。
その概要は以下の通りである。



「分別・資源化を更に進める」について最も多くの意見が出された。
特に「雑がみ」や「容器包装プラスチックごみ」については多くの意見が出されるとともに、各回の議論の間にそれぞれの家庭で分別・資源化を実践し、ごみの量は半分～1/3 ほど減少したという委員からの報告がいくつもあった。

次に多く出されたのが「意識の醸成」についてであった。
委員からは住民協議会でごみへの意識が高まり、家庭でのごみが減ったという実体験をふまえ、多くの市民がごみへの意識を高めることが必要であるという意見が出された。

課題や改善提案の詳細は第 6 章に掲載する。

４．行政の実施を期待する取組

第３回会議までの議論をまとめた「改善提案シートとりまとめ」をふまえて各分科会のコーディネーターが「分科会の議論から挙げられる『行政の実施を期待する取組』」を整理した。それを第４回会議において分科会ごとに議論し、評価した。
その結果は以下の通りである。

課題	取組案	評価	件数	得点（順位）
ごみ減量化への意識が低い（意識・関心レベル）	清掃センター及びリサイクルプラザを活用したプロモーション	大いに効果が期待できる	3	52(4 位)
		効果が期待できる	18	
		あまり効果は期待できない	7	
		効果は期待できない	0	
	（仮称）ごみ減量サポーターによる市民への啓発	大いに効果が期待できる	4	47(6 位)
		効果が期待できる	15	
		あまり効果は期待できない	5	
		効果は期待できない	3	
	ごみ減量化に向けた明確なビジョンを示す	大いに効果が期待できる	9	63(2 位)
		効果が期待できる	16	
		あまり効果は期待できない	4	
		効果は期待できない	0	
分別（Recycle）が徹底できていない	雑がみにターゲットを絞った取組の強化	大いに効果が期待できる	12	64(1 位)
		効果が期待できる	13	
		あまり効果は期待できない	2	
		効果は期待できない	0	
	ごみを出す際に市民が負担する料金の見直し	大いに効果が期待できる	3	46(8 位)
		効果が期待できる	15	
		あまり効果は期待できない	7	
		効果は期待できない	3	
	ごみの出し方の見直し（特に資源ごみ）	大いに効果が期待できる	3	47(6 位)
		効果が期待できる	18	
		あまり効果は期待できない	2	
		効果は期待できない	0	
削減（Reduce）が徹底できていない	ごみ減量協力事業者制度の導入	大いに効果が期待できる	8	59(3 位)
		効果が期待できる	16	
		あまり効果は期待できない	3	
		効果は期待できない	0	

断る（Refuse）が徹底できていない	断る（Refuse）事例を収集して広報紙等で紹介する	大いに効果が期待できる	3	43(9 位)
		効果が期待できる	14	
		あまり効果は期待できない	6	
		効果は期待できない	0	
再利用（Reuse）が徹底できていない	もったいない太田市（おおたいち）の開催	大いに効果が期待できる	2	43(9 位)
		効果が期待できる	16	
		あまり効果は期待できない	5	
		効果は期待できない	5	
ごみによる環境問題が発生している	ごみステーションの適正管理を支援する	大いに効果が期待できる	4	49(5 位)
		効果が期待できる	16	
		あまり効果は期待できない	5	
		効果は期待できない	0	

※取組案ごとに「大いに効果が期待できる」…３点、「効果が期待できる」…２点、「あまり効果は期待できない」…１点、「効果は期待できない」…０点として得点化し、得点による順位を付した。

委員から最も「効果がある」と評価されたのは、分別を徹底するために「雑がみにターゲットを絞った取組を強化する」だった。委員からは「ごみの量を減らすとただ言われるより、ターゲットを決めると減らす方法がわかりやすくなる」「現状では一番リサイクル効果がありそう」などの意見が出された。

次いで高評価だったのがごみの減量化への意識を高めるために「ごみ減量化に向けた明確なビジョンを示す」だった。ごみ減量化に対しての市民の意識やモチベーションが高まるようにごみ減量化することによるコスト面でのメリット、減量化の目標、また現在太田市のペットボトル買取価格が日本最高クラスであることのアピールなどが必要であるなどの意見が出された。

コーディネーターから提案された「行政の実施を期待する取組」の、委員の評価コメントの詳細は第７章に掲載する。

５．「一人一人がやっていくこと」「地域でやっていくこと」

第５回会議でこれまでの議論をふまえて、ごみの減量化について「個人の取組」「地域の取組」について議論し、分科会ごとにとりまとめた。
その結果は以下の通りである。

第１分科会	課題：雑がみを分別・資源化してごみを減量する。	
	個人の取組	行政が保存版の資料（ごみ出しのルール、出し方事例など）を発行し、それをしっかり見ながら意識を高めて分別する。
	地域の取組	小中学校、育成会での回収を団体ごとに時期をずらすなどして頻度を増やす。 小中学校での集まりや一斉メール、回覧板などで周知し理解を深める。
	課題：ごみに対する関心や意識を高め、減量を行動に移す。	
	個人の取組	意識の高まった人から、ご近所や学校などで周りに広げていく。
	地域の取組	市全体で長期的な目標を定めて成果の推移をしっかりと見える化する。 講習会を行い、ごみの意識の高い人を育成する。
	課題：将来ごみになるものを減らす。ごみの発生を抑える。	
	個人の取組	ごみになるものをなるべく買わない。 粗大ごみは買取業者を活用する。
	地域	区長から各地域で情報を共有する。
第２分科会	課題：雑がみを分別・資源化してごみを減量する。	
	個人の取組	家庭内の分別徹底。 家庭内意識改革（特に男性）。 雑がみを知る。
	地域の取組	収集場所を増やす（スーパー、ステーション、集会所）。 行政センターとステーションの中間的存在。 ごみの行方の見える化。 人が集まるところ、口コミ。
	課題：ごみに対する関心や意識を高め、減量を行動に移す。 ポイ捨てや不法投棄をなくし、きれいな太田市にする。	
	個人の取組	大人も子供も清掃センターを見学。 小中学校で終わりにせず、大人になるまで。 タバコのポイ捨て注意。

６.「改善提案シート」まとめ

○ 委員からの改善提案概要

（１） 分別、資源化の更なる推進（Recycle）

課　題		分別による資源化を更に推進できるのではないか。
改善提案	個人の取組	・　分別ルールを勉強して、理解を深める。 ・　家族が多くごみの絶対量を減らす事は難しいため、リサイクルできるものをしっかりと分別する。 ・　家族で話し合いの場を設ける、家庭の分別標語「捨てるの待って　その包装紙　再資源」を創るなど、家庭内での意識を高める。
	地域の取組	・　近隣の人と分別について話す機会を増やす。 ・　地域の会合などでも無駄な紙を使わないようにする。
	行政の取組	・　資源ごみを出しやすい仕組みを考える。 ・　ごみの分別を徹底する意識を高める。 ・　ポスター、ホームページ、メール、新聞、企業や学校への案内などを通じて、市民に分別ルールを周知する。 ・　細かな分別ルールだけでなく、わかりやすく理解できるような内容で市民に伝える。 ・　小中学校でごみについての授業を行う。 ・　学校でリサイクル活動を行い、子どもから親へ分別の意識を浸透させる。 ・　企業にも分別に協力してもらうよう働きかける。 ・　外国人への説明を徹底する。 ・　回収方法を見直して資源ごみを出しやすくする。 ・　小中学校に回収拠点を置き、子どもが登校時に持って行けるようにする。 ・　ごみの減量化を促すためにごみ袋の価格設定を見直す。ごみ袋の価格を適正な価格に設定しないとポイ捨てが増える懸念がある。住民が納得できる価格にし、しっかりと説明する。 ・　ごみ袋に氏名を記載する方法にする。
	その他	・　小売店（スーパーなど）が販売時にトレイを使わないなどの工夫をする。 ・　分別を判断しにくい商品を売る企業には、分別方法を商品に記載してもらうなどの工夫をしてもらう。

		・　外国人に対しては賃貸のオーナーや不動産屋が家を貸す時にしっかり説明する。

課　題		**雑がみ、容器包装プラスチックの分別による資源化を更に推進できるのではないか。**
改善提案	個人の取組	＜紙ごみについて＞ ・　リサイクルできる雑がみの種類を知り、しっかりと分別して、資源ごみに出す。 ・　必要のない FAX を受け取らないよう、パソコンで受け取り、用紙をなるべく使わない。 ・　購入時に不要な紙を断るようにする。 ＜容器包装プラスチックごみについて＞ ・　捨てるもの一つ一つに「プラ」マークがないか、よく見てから捨てるようにする。
	地域の取組	・　容器包装プラスチックや雑がみなどの資源ごみを、町内会や育成会で収集することを検討する。 ・　ごみステーションに雑がみの分別方法をわかりやすく説明する案内板を設置してＰＲする
	行政の取組	・　町内会での回収に助成金を出す。 ・　雑がみの回収方法について改善策を検討する。 ・　雑がみ用のごみ袋を作り、ごみ袋に分別内容を表記する。 ・　広報紙などに雑がみの分別方法について掲載してＰＲする。

課　題		**スチール缶の分別による資源化を更に推進できるのではないか。**
改善提案	個人の取組	・　アルミ缶・スチール缶を分別する。
	地域の取組	・　集めやすくする。環境を整える。 ・　行政センターでスチール缶も集められるようにする。
	行政の取組	・　スチール缶を分別、回収するための環境を整える。
	その他	・　スーパーなどでもスチール缶を出せるようになるとありがたい。

課　題		食用廃油の回収を更に推進できるのではないか。
改善提案	個人の取組	・　食用廃油を回収していることを知る。 ・　行政センターに食用廃油を持ち込む。
	行政の取組	・　大きな器に食用廃油を入れる回収方法だと市民が出しやすいのではないか。

（２） 意識の醸成

課　題		ごみ減量化の意義、メリット、方法、目標について明確に市民に伝わっていない。
改善提案	個人の取組	・　ごみの減量化に興味を持つ。 ・　ごみの分別ルールを理解する。 ・　現状を把握し、知識を深めるため清掃センターを見学する。 ・　45ℓのごみ袋を使っていれば、30ℓのごみ袋でごみを出すように努力をするなど、家庭で減量する目標を定めて取り組む。
	地域の取組	・　回覧板などで各家庭に分別の種類、仕方、分別のメリットなどを共有する。 ・　地域に届いたごみについての情報を地域全体に伝えるとともに、必要としている人には個別に伝える。 ・　ごみの分別ルールを理解するための勉強会を地域として開催する。 ・　町内会で清掃センターを見学してごみの出し方などに関心を持つ。
	行政の取組	・　リサイクルについての講演会を催し、市民に周知する。 ・　ホームページを見られない人にも情報をしっかりと届ける。 ・　分別した資源がどのように回収、処理されるのかを、市民に伝える。 ・　情報を伝える対象別（子ども、若い人、高齢者など）に配信の仕方や、わかりやすく理解してもらう方法を考える。 ・　群馬県内の市町村のごみの出し方の違いを示す。 ・　外国人にもごみの出し方をきちんと説明する。 ・　定期的に情報を届けるなど、周知方法の工夫をする。 ・　スマートフォンアプリなどで太田市のごみの情報を発信する。 ・　太田市が減量したいごみの量を数値化して１家族あた

		りのごみを減らすわかりやすい目安を示す。 ・　住民の清掃センター見学について予算化する。

課　題		分別してごみを出す意識や取組が不十分。
改善提案	個人の取組	・　家庭でできることを話し合う。 ・　自ら進んで学ぶようにする。 ・　住民協議会で話した内容を職場などで話してごみ問題を周囲に伝える。
	地域の取組	・　地域の集会で、ごみの課題について協議する。 ・　地域のごみステーションに減量意識を醸成するためのステッカーを貼る。 ・　地域で資源ごみの回収を行う。
	行政の取組	・　子供だけでなく大人にもごみ問題の意識を持ってもらえるようにするための啓発を行う。 ・　広報紙などでごみの分別ルールなどを知らせる。
	その他	・　高校、大学でも資源ごみの回収を行うよう働きかける。

（3） 将来ごみになるものを減らす（Reduce、Refuse、Reuse）

課　題		ごみの発生を抑えるための工夫ができるのではないか ＝　Reduce（リデュース）、Refuse（リフューズ）。
改善提案	個人の取組	・　ペットボトルの飲み物を買わない、買い物袋を持参する、１回しか使わないものは買わないなど、ごみを家庭に持ち込まない工夫をする。 ・　余分な食べ物は買わない、作らないようにする。残ったものは過熱して、後で食べる。 ・　包装の少ない物やリサイクルできる物を選んで買う。 ・　買い物マナーを意識して実践し、個人だけでなく全体の食品ロスを削減する。 ・　プラスチックストローを使わない。断る。
	地域の取組	・　子ども会などで物を大切にする気持ちを子どもたちに伝える。 ・　作る側・売る側に過剰包装解消について提案するなど、ごみにならない販売方法について企業と協力して取り組む。 ・　品物を発注する際には必要な量だけ発注する。
	行政の取組	・　小学生から食育教育をする。 ・　ごみになる包装をしないよう企業に働きかける。

		・　ごみの発生を抑えるためのアイデアを募集する。 ・　食品ロスを減らすためにフードバンクを増設する。 ・　マイバッグを配布する。 ・　プラスチックストローの廃止を制度化する。
	その他	・　小売店（スーパーなど）の売り方を工夫してもらう。 ・　太田市は小麦の生産が盛んなので、プラスチックストローのかわりに麦わらを利用してはどうか。

課　題		**再利用することでごみの発生を抑えることができるのではないか　＝　Reuse（リユース）。**
改善提案	個人の取組	・　空き瓶を「花瓶」として利用するなど、再利用することを考える。 ・　着なくなった衣類や使わなくなった家電製品をフリーマーケットに出品する。
	地域の取組	・　ごみとして捨てるのではなく、使いたい人に譲ることの仲介をする。
	行政の取組	・　市営リサイクルショップを開設する。 ・　地域のコミュニティ広場を利用して、市民による企画や農産物の販売などと同時開催のフリーマーケットを開催する。

（4） 不法投棄、ごみステーション管理

課　題		**ポイ捨てや不法投棄がある。**
改善提案	個人の取組	・　ポイ捨てをしないようにする。 ・　道路や公園などにごみが落ちているときは、積極的に拾い、分別して捨てる。 ・　不法投棄しているところを見かけたら注意する。
	地域の取組	・　地域で役員を決め、見回りなどの監視をする。 ・　地域で清掃活動を行う。 ・　クリーン作戦に参加する。
	行政の取組	・　看板設置だけでは効果がないのではないか。 ・　人通りの少ない目立たない場所や管理されずに荒れた土地など、捨てられる箇所は決まった場所。地主などと交渉し、ネットフェンスで囲む、荒れた土地を畑などに活用するといった捨てられなくなるための対策を行う。
	その他	・　車の窓からごみが投げ捨てられていて困っている。

		・　外国人に対しては、雇用主の企業にごみの出し方を説明してもらう。

課　題		ごみステーションの管理に手が行き届かない
改善提案	個人の取組	・　生ごみは、水を含んだまま出さずに、水分を抜いてきれいにしてから出すようにする。 ・　袋の口をしっかりと縛ってごみを出す。 ・　カラス対策として、竹で罠を作る。
	地域の取組	・　ごみが回収された後に清掃をする。 ・　時間外のごみ出しを防止する。
	その他	・　地域外の人が車の窓からごみステーションにごみを投げ捨てることがあり困る。

（5） 生ごみの処理

課　題		生ごみ処理機の使用など、生ごみの出し方に工夫の余地がある。
改善提案	個人の取組	・　生ごみは乾燥させてから出す。 ・　生ごみの発生量を抑える。 ・　生ごみ処理機を活用し、有機肥料として生ごみを再利用する。
	地域の取組	・　生ごみ処理機の助成制度、利点や活用方法を地域で共有する。
	行政の取組	・　生ごみ処理機の助成制度の周知を行う。 ・　生ごみ処理機使用時の電気代の補助をする。 ・　生ごみだけでなく、草木のごみに関しても水分を乾燥させて出すように周知する。

（6） 事業系ごみ

課　題		事業系ごみも分別を更に進めることができる
改善提案	個人の取組	・　会社で紙ごみが多くでる。必要のない営業 FAX が届くので、データ受信して必要なものだけ印刷するようにする。 ・　事業所内で分別を徹底する。 ・　自分の働いている企業に分別への協力を仰ぐ。
	行政の取組	・　企業向けのごみの講演会を実施し、参加してもらう。

（7） その他の意見

- 枯葉などについて、近所迷惑にならなければ野焼きしても良いのではないか。
- 元気な高齢者が少しお手伝いしてほしい人などのごみ出しのサポートやごみの出し方など情報の仲介を行う。
- 正直、個人では身の周りの「楽さ」を選んでしまうことが多い。
- 個人的に、リサイクルできる雑がみはもえるごみに出すのが習慣になっている。
- 明るい町づくりを進める。
- ごみ袋の値上げを行うと共に値上げによって増えた収益を広報費などに充てればごみの減量の問題の周知ができる。

７．「行政の実施を期待する取組」、コーディネーター提案・委員からの評価コメント詳細

（１） 分科会の議論から挙げられる「行政の実施を期待する取組」（コーディネーター提案）

１．ごみ減量化への意識がさまざま（意識・関心レベル）

課題	ごみ減量化への意識が高い人、低い人など市民意識はさまざまである。
概要	● 今回の住民協議会では、行政と対話したり、清掃センター及びリサイクルプラザを見学したりなど直接的な体験を通じて、多くの参加者が、ごみ減量化の問題を“自分ごと化”できたと思う。今後、ごみ減量化に関心が高い市民を一人でも増やすためには、市民との直接対話の機会を増やす仕掛けが必要ではないか。 ● ごみ減量化に意識が高い市民は多い。ごみ減量化の取組は、行政だけでは達成できない。行政から市民という流れのほか、市民から市民へといった啓発方法も考える必要があるのではないか。
行政の実施を期待する取組	<u>１－１：清掃センター及びリサイクルプラザを活用したプロモーション</u> (1)バスツアーの実施 ・清掃センター及びリサイクルプラザを直接見学することが、ごみ減量化の最大のプロモーションと考える。そこで、広報紙等で広く募集し、同センターへのバスツアーを定期的に実施する。 (2)各種イベントと連携したバスツアー ・環境フェアや産業フェスティバルなど市民が多く集まるイベントで会場発着のバスツアーを実施する。 (3)出前講座としての活用 ・自治会や各種団体による見学ツアーを受け入れる。 <u>１－２：「（仮称）ごみ減量サポーター」による市民への啓発</u> ・市民に身近な立場でごみ減量についてアドバイスする「（仮称）ごみ減量サポーター」を組織化する。今回参加された住民協議会の有志により、スタートしても良いのではないか。当メンバーは、ごみ減量に対するモニターとして、行政が啓発冊子を作成する際に直接意見を聴いたり、アンケートに協力いただいたりなど、市民視点で事業点検に協力いただくなど、さまざまな活躍が期待できる。

課題	**ごみ減量化がなぜ必要なのか、どこまで取り組むべきか、明確になっていない**
概要	● ごみ減量化を進めなかったとき、将来どのような問題があるのか、明確に伝えられていない、危機感やビジョンを市民と共有化できていないのではないか。いや、共有化するための課題整理が出来ていないのではないか。
行政の実施を期待する取組	<u>１－３：ごみ減量化に向けた明確なビジョンを示す</u> (1)ごみ減量化の課題を整理し、明確に伝える ①危機感からのアプローチ ・太田市の中長期的な視点に立って、ここまでごみを減量しましょう、その目標を達成できないと新たに建設する清掃センターが●年で使えなくなるなど、危機感を共有する。 ・近年、異常気象による災害が日本各地で発生しているが、地球温暖化など環境問題と関連が深いと多くの市民が気付いている。環境問題の視点から危機感を共有する。 ②ごみ減量による効果を明確に示す ・ごみ減量化によって、ごみ処理費●億円の税金を教育や経済振興などに使えるなど、具体的なデータを示して伝える。 ・ごみの分別収集は、住民から行政への流れになっているが、住民側と行政側のどちらで分別を徹底すれば、どれだけの費用対効果があるのか具体的に示す。

２．分別（Recycle）が徹底できていない

課題	**分別方法が複雑で、市民が理解して分別できていない**
概要	● ごみを分別することは、住民側にとっては負荷が大きい。その負荷を少しでも軽減することによって、分別を促進することが出来るのではないか。 ● 各家庭から搬出されるもえるごみで、分別出来ていないものの中心は、「雑がみ」である。雑がみが分別されれば、ごみの搬出量はかなり縮減できるのではないか。住民協議会でも雑がみに対する理解は、かなり違いがあった。
行政の実施を期待する取組	<u>２－１：雑がみにターゲットを絞った取組の強化</u> ・雑がみ分別の強化月間を指定して、チーム太田として一丸となって市民運動を推進する。その取組結果を公表し、雑がみ分別の徹底を加速化させる。 ・強化月間中の広報紙では各家庭での雑がみ分別の好事例を紹介する。 ・主要駅や主要交差点に強化月間の横断幕を掲示するなど、一人でも多くの市民が目にして、関心を持てるような啓発を実施する。

課題	分別、資源化を促す仕組みが整っていない
概要	● 資源化するよりももえるごみとして出すほうが安く、出しやすい状況がある。資源化を促すために料金設定と出し方を見直す必要があるのではないか。
行政の実施を期待する取組	２－２：ごみを出す際に市民が負担する料金の見直し 指定ごみ袋や清掃センター、リサイクルセンターへの持ち込み料金を、市民が資源化にむけて動きやすくなるよう見直す。 ２－３：ごみの出し方の見直し（特に資源ごみ） 資源ごみを家庭の中に溜め込む必要を無くし、出しやすくすれば、資源化への協力を得やすいので、現在の資源ごみの出し方を、市民にとってより出しやすい形になるように見直す。（その際の回収コストを上記の料金見直しによる収入で賄うことも考えられる。）

３．削減（Reduce）が徹底できていない

課題	再資源化できない商品を企業が理解しないで販売しているのではないか
概要	● 柄付きのトレーなど再資源化できない商品を店舗で販売している。このような商品を市民一人一人が意識して買わないことで、経済原理が働くことも期待できるが、各企業が再資源化できないことを知らずに販売していることも考えられるので、各企業に情報を的確にお知らせするとともに、取組を促進するための仕組みを構築する必要があるのではないか。
行政の実施を期待する取組	３－１：ごみ減量協力事業者制度の導入 ・ごみ減量化に協力的な企業を認定し、市民に広報する制度を創設する。認定企業には、消費者にもわかる認定証を交付し、このお店は過剰包装しないということを理解できるようにする。 ・認定する際の評価基準の一つとして、再資源化できない商品を販売していない点を加える。例えば、柄付きのトレーを使った商品を販売しないなど。

４．断る（Refuse）が徹底できていない

課題	断る（Refuse）の取組が市民一人一人に伝わっていない。また、企業の協力や理解がなければ、この動きを継続して成果を上げることは難しい
概要	● 断る（Refuse）の取組は、市民一人一人と企業が中心となるが、この取組の機運醸成は行政にしかできない。行政は、断る（Refuse）の旗振り役として、それぞれが行動へ移すことがメリットと感じる仕掛けやシステム化を考えなければならない。

行政の実施を期待する取組	４－１：断る（Refuse）事例を収集して広報紙等で紹介する ・断る（Refuse）に関する市民のさまざまな取組収集し、広報紙等で紹介する。または、グッドアイデアは、各家庭に配布するごみカレンダーで紹介する。

５．再利用（Reuse）が徹底できていない

課題	**再利用（Reuse）の取組が活発でない**
概要	● 再利用（Reuse）の取組は、個人差があるのではないか。リサイクルプラザや民間のリサイクルショップ、フリーマーケットなど、利用している人も多い。また、利用したいと思っている人もいると思うが、機運が広がらないのではないか。
行政の実施を期待する取組	５－１： もったいない太田市（おおたいち）の開催 ・大規模なフリーマーケットを開催し、みんなで使えるものを大切に使う Reuse の取組を推進する。 ・子ども用品（おもちゃ、洋服）は使う期間も限られるものの、捨てるに捨てられない。そこで、子育て世代に賢くフリーマーケットを活用してもらう。子どもも自分の大切なおもちゃを売ってお小遣いを稼いだり、次に使ってくれる子どもの顔が見られれば安心して手放せると思う。 ・着物や洋服を Reuse する達人も多いので、Reuse ファッションショーや販売を行う。 ・我楽多と思えるような趣味の物も多数販売し、賑やかさを創出する。 ・フリーマーケットの課題として、怪しげ？な業者の参加があるが、例えば市（いち）の中で循環するコインのようなものを使い、物々交換のような仕組みを導入すれば改善できるのではないか。

６．ごみによる環境問題が発生している

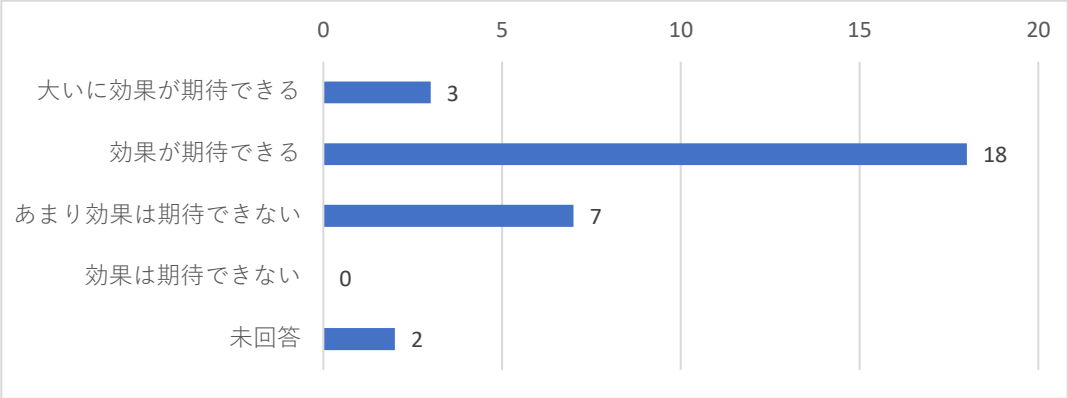
課題	**ごみステーションが適切に管理できていない**
概要	● ごみステーションを適切に管理できていないため、カラスや野良犬による住環境に悪影響を及ぼしている。
行政の実施を期待する取組	６－１：ごみステーションの適正管理を支援する (1)ごみステーションを適正に管理するためのノウハウを紹介する ・カラス対策の成功事例等を紹介する。 ・ごみステーションの適正な管理方法を紹介する。 ・ごみステーションは、ごみ捨て場ではなく、ごみを適切に処理するためのステーションであることをお知らせする。 (2)適正管理のための支援策を行う ・ごみステーションを適正管理するための備品等（カラス除けネット、

	看板等）を購入するための補助金を交付する。 ・ごみステーションを適切に管理するためのボランティアを駅長として指名し、腕章を配布する。駅長には、高圧的な指導ではなく、みんな快くステーションを利用いただくための役割である旨を研修等で理解してもらうことも重要。

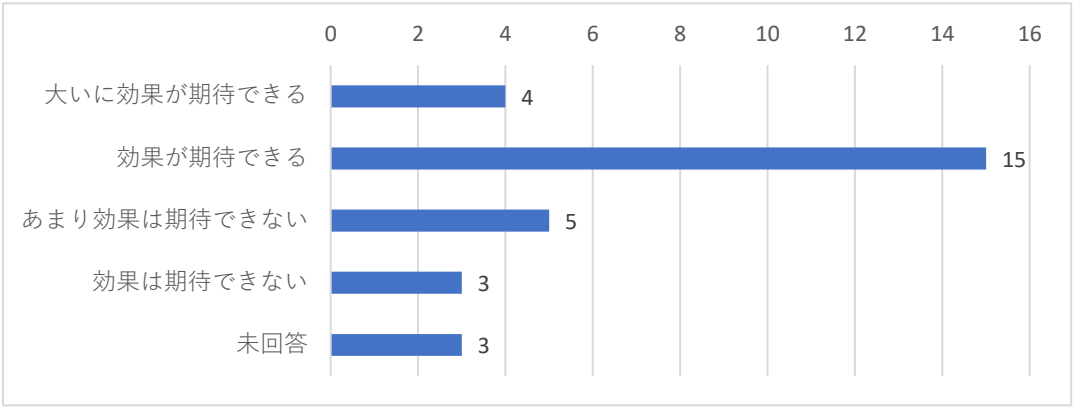
（２）　「行政の実施を期待する取組」について委員からの評価とコメント

１．ごみ減量化への意識が低い（意識・関心レベル）

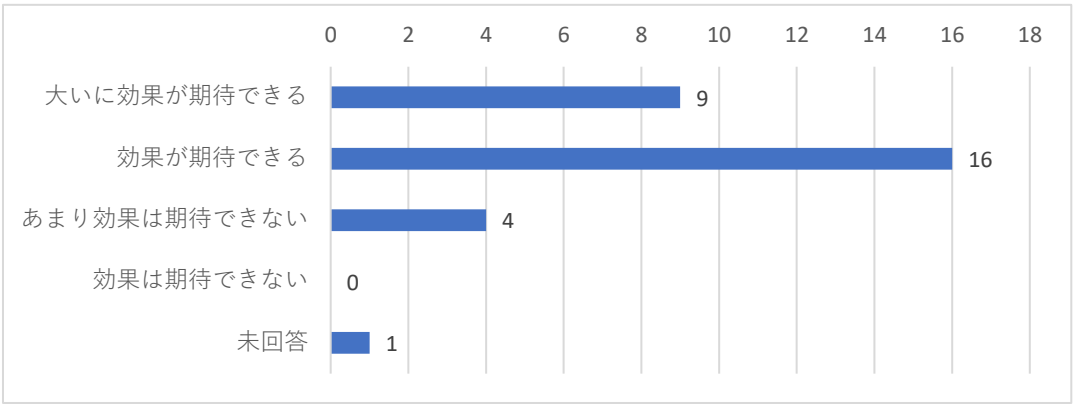
（１）コーディネーターが提案する「行政の実施を期待する取組」について

１－１：清掃センター及びリサイクルプラザを活用したプロモーション	
評価	
コメント	１．大いに効果が期待できる ・　対象者を”区長”や”地区メンバー”のように絞るべき。 ・　市民に対してはごみ問題を啓発する活動として継続的に続けることが大切だ。一過性でないことが重要だが、人員の指名含めて、なぜ必要かという説明がないと難しい。 ・　リサイクルプラザを見学することで皆変わってくると思う。
	２．効果が期待できる ・対象者を区長等に限定して募集する。 ・地区の役員で申込をして、区長等に音頭をとって貰ったら良いと思う。 ・組長が参加する等、広い範囲の人に行ってもらえるようにするとよい。 ・住んでいる地区ごとでツアーをすると行きやすそう。 ・小学生～高校生等、ターゲットを決める。 ・行政と市民を結ぶ地域の活動が必要。区長さん等に興味を持ってもらう。 ・環境フェア等と併せて見学ツアーを企画する。 ・皆が足を運びたくなるようなイベントと合わせてごみ減量化の講義をすることができたら良いと思います。（例）ヒーローショー、ボランティアによる手品ショー

	• 産業環境フェスティバルと実施日が被ると、それを楽しみにしている人は興味があっても参加しないかも。 • イベント会場発着のバスツアーはいかがなものかと思う。イベントはイベントとしてしっかり開いてもらいたい。 • マイ箸、マイ器等を持参してイベントに参加する等、使い捨て容器の使用を少なくする。 • 粗大ごみの中でリニューアルできるものを格安で販売（実施中か？） • プロモーションをテレビコマーシャル等で流す。 • 効果は一番あると思うが、実施するハードルが高い。 • 清掃センターに行く機会を作る意味で、清掃センター・リサイクルプラザでないと捨てられない品目を設ける（電池等）。 • 見る・知ることで関心・意識のレベルアップ。 • 関心をもつようになると思う。
	３．あまり効果は期待できない
	• ごみ減量化への意識が高い人は参加すると思うが、関心が低い人にどうやって参加させていくかの案が必要。 • 見学をしたいと思う人は少ないのではないか。 • 一般市民への効果は疑問。市内の中学・高校での授業の一環であれば意識作りとしての効果はあるかも。 • 関心のない人は来ないと思う。小学校４年生と保護者でリサイクルプラザ等に行くので良いと思う。 • 清掃センター・リサイクルプラザへの関心を持つためにイベント等の内容・開催日等を行き易くする内容にする。 • 期待度は薄いが、リサイクルプラザは無駄がなくて良いのではないか。（個人消費やごみとして出す）
	４．効果は期待できない

１－２：（仮称）ごみ減量サポーターによる市民への啓発	
評価	

コメント	１．大いに効果が期待できる
	• 組長会・区長会を通じて当該サポーターが啓発に取り組む。 • ごみ減量のセミプロとしての周知と減量活動の実績も見える化・見せる化して、さらに動機付けすることで効果が出るのではないか。 • サポーターがいてくれたら良いと思う。
	２．効果が期待できる
	• 意識改革という点では良い。 • 分別や減量に興味のない方に少しでも必要性を伝えることができる。 • 地域の中の班の衛生当番が住民に意識改革を行う。 • 具体的にどうまわりの人に広めていくか。各家庭で減らしてもらうのか？もしもごみ袋の中身がばらまかれていたらサポーターが片づけるのか？サポーターは啓発のみなのか？ • 実施するにあたって進め方がイメージできないが、区長等の協力を得ながらやると良いのではないか。 • サポーターが年２回くらい戸別訪問をしてごみ減量のチラシを配布する。 • 行政で作成したごみ減量チラシを一軒ずつ配って意識を高める。 • 地区の環境保健委員等と、太田市、市民、業者で話し合ってもらう。 • 今はまだ時期尚早だが将来的に考えても良いと思う。現状は環境保健委員が兼務するのが良い。 • 大きいイベント等の場で検討会議を行う。 • サポーターの選任には年代別や市民以外の人という視点も取り入れる。 • 年近な人を選ぶ。 • 子どもから大人に広めていく。
	３．あまり効果は期待できない
	• サポーターになる人がいるかどうか。 • 協力者になってくれる人はいるのか疑問だ。モニターとして姿を見せないのなら協力者はいると思う。 • アンケートへの回答やモニターとして参加できると思う。それ以上の参加となるとむずかしい。 • 口頭ではむずかしいと思う。
	４．効果は期待できない
	• モデルケースや試験的に特定の地区でやってみて、改良していけば効果が得られると思うが、受けてくれる人がいるかどうか疑問だ。 • プライベートの関係を注意する。

<table>
<tr><th colspan="2">１－３：ごみ減量化に向けた明確なビジョンを示す</th></tr>
<tr><td>評価</td><td> 
</td></tr>
<tr><td rowspan="4">コメント</td><td>１．大いに効果が期待できる</td></tr>
<tr><td>• 市民にとってどうプラスとなるか明確にする。
• どれだけのメリットがあるのか知らせるのは大切。
• 一番大事だと思います。具体的にいくらくらいの効果が上がるのか、市民のメリットがわかるといい。
• 分別しなければならない理由がはっきりすれば、より効果が上がると期待する。
• 周知すべき目標『なぜ必要なのか』がキーポイント。
• コストパフォーマンスが見える化できると良い。太田市のペットボトルは買取価格が日本最高クラスであること等を周知することでモチベーションが上がる。
• 減量した結果を市民への告知・報告や目に見える形になれば市民の協力が得られると思う。できれば市民にご褒美的なものが有るともっと協力が期待できる。
• 期間を決める。
• 関心を持って。</td></tr>
<tr><td>２．効果が期待できる</td></tr>
<tr><td>• リサイクルのメリットを見本等を使用して見聞きできたらよい。
• ごみを 5%減らして浮いたお金の使い道を示す。
（例）エコ電気バスを何台購入する目的、等
• 効果が実感できればごみの減量化につながると思う。
• ごみに掛かる費用を明確化する。
• 余裕がないと知れば危機感は生まれると思う。
• 一つの手段だけでなく、複数の手段を使ってビジョンを示す。
• 成功している市の例を示してＰＲ活動。
• プラ・紙マークの徹底したＰＲ。
• 清掃センターのバスツアーと連携できたら実感が強まりそう。説明会等をやるなら、エアリスや太田市民会館でまとめてやってもよさそう。</td></tr>
</table>

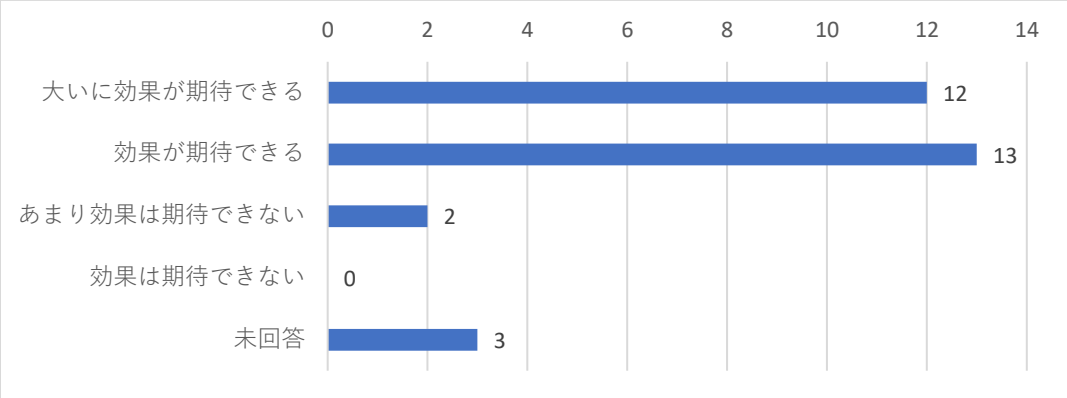
	• リサイクルはどのように行われているのか具体的になるとごみの減量化が進むのではないか。 • 太田市ではプラスチック業者でリサイクルしている。個人が分別したペットボトルを買い取って貰えるようにする。全国でも太田市のペットボトルは高く買い取ってもらっている実績がある。 • 「ごみの量を減らす」から「ごみ処理費用を減らす」という表現にしてみたら良いのではないか。 • ごみ袋に名前を書くのも良い。
	３．あまり効果は期待できない
	• 住民のほとんどは危機感を持っていない。 • 個人、各家庭に意識を高めてもらう。 • 庭の有る家に住んでいる人には生ごみ処理機設置を義務付けたら良いのではないか。
	４．効果は期待できない

（２）コーディネーター提案以外のグッドアイデア

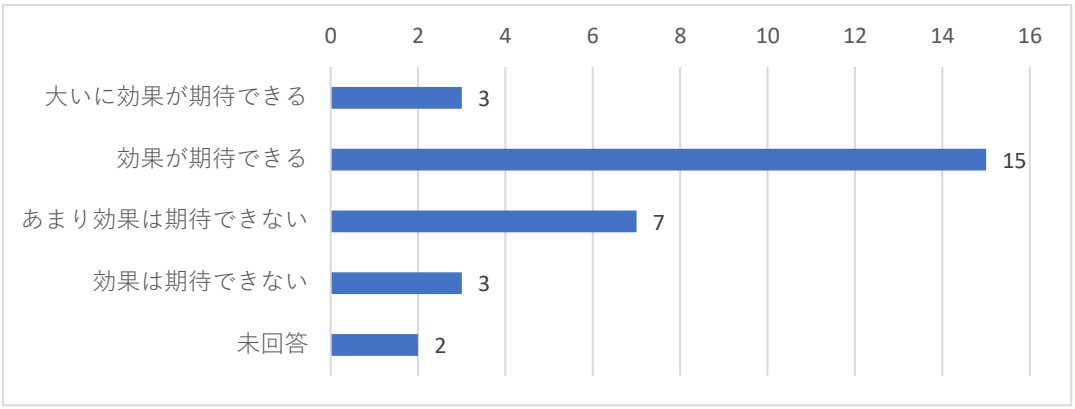
行政に期待する取組	• ステーションへの貼紙。 • 地区毎に衛生当番があると思うが、年２回くらいの頻度で地区住民へ減量化のアピール（チラシ）等を行っていく。 • 市民・行政・企業の連携をインターネット・アプリ等のツールによって誰の目にも見えるようにしてほしい。 • 具体化した案のＰＲ。 • ＰＲ隊等を使ってみる。 • 生ごみ処理機を購入する補助ではなく、配付するのはどうか。無料なら庭の片隅に置こうかという家もあるかもしれない。 • 行政と市民がごみに関する事で話し合う機会があるのは良いことだと思う。 • 行政と個人が繋がるようにパンフレット等は両者から提案があるのが望ましい。 • 一般の方、子ども、大人（市民）に関心・意識を高める。知らなかったことを知る機会を設ける。
個人ができること	• 環境保健員が戸別訪問した時に、集積所まで運べない人のために近所に協力を依頼する。協力要請を受けたら快く引き受ける。 • 生ごみはそのままもえるごみとして出さない。
地域ができること	• 衛生当番は順番制なので皆が協力する。

２．分別（Recycle）が徹底できていない

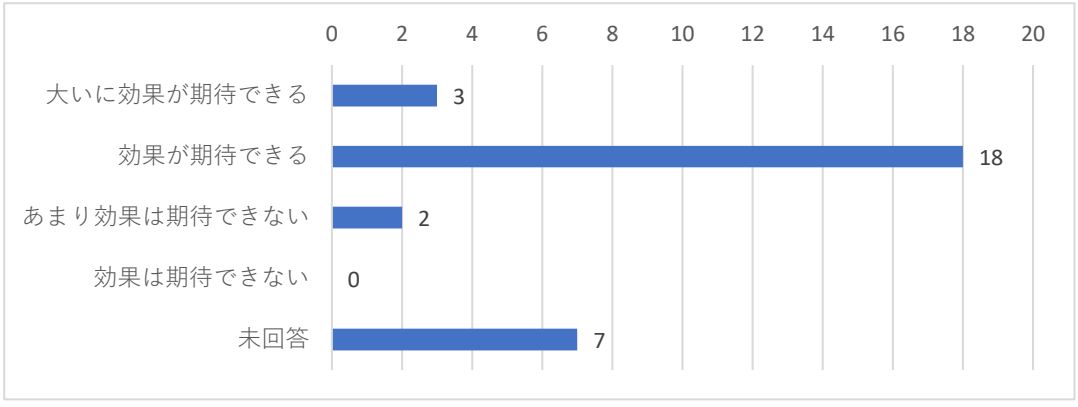
（１）コーディネーターが提案する「行政の実施を期待する取組」について

<table>
<tr><th colspan="2">２－１：雑がみにターゲットを絞った取組の強化</th></tr>
<tr><td>評価</td><td> 
</td></tr>
<tr><td rowspan="4">コメント</td><td>１．大いに効果が期待できる</td></tr>
<tr><td>• 現状一番リサイクルに効果が有りそうなので、良く市民に周知徹底する。
• その他プラ、雑がみが減少すると概ね 1/2～1/3 まで減量可能となる。ターゲットとして期待大。
• 雑がみを減らすとごみの量に大きく差がついた。
• 雑がみの分別でごみの減量ができる。
• 雑がみの分別は意外とできるのではないか。
• ごみの量を減らすとただ言われるより、ターゲットを決めると減らす方法がわかりやすくなる。
• ターゲットを絞る、というのは効果を高めるのによいと思う。
• 雑がみを出す機会を市民にわかり易くしてほしい。
• パッケージ等に紙マークがついているので、紙マークのＰＲをたくさんする。
• 期間を決めて大々的に市民に伝える。
• 雑がみ用ごみ袋を作る。
• 雑がみ用ごみ袋の表装を考える。
• 雑がみを出す曜日を設ける。</td></tr>
<tr><td>２．効果が期待できる</td></tr>
<tr><td>• 出し方をわかりやすく呼びかける。
• 細い紙ごみは紙袋に集めて出す等、出し方を市民に伝えられるとよい。
• 集積所が行政センターとなっているが、細かく搬出先、搬出日を決めた方が出しやすい。
• 行政センターへの持ち込みではなく、回収できないと難しいのではないか。雑がみ用のごみ袋を作って、回収できるようにした方か良い。</td></tr>
</table>

	• アルミ缶等が持ち去られていくので行政センター等は気を付けている。雑がみを写真に撮って見てもらう。 • 分別の日を指定して町内での取組結果を広報紙等で良い点悪い点を公表する。 • ごみ減量サポーター等をモニターとして利用する。 • 買い物にはマイバッグ等を使用している。ダンボールはスーパー等の回収を利用している。 • 菓子折等は厚いので袋の割合を占める。
	3．あまり効果は期待できない
	• 若い者はやらないと思う。
	4．効果は期待できない

２－２：ごみを出す際に市民が負担する料金の見直し	
評価	
コメント	1．大いに効果が期待できる
	• 意識を高めるためにも必要。 • ごみ袋の大きさと枚数で料金が変わるのがよいのではないか。
	2．効果が期待できる
	• 料金が高くなると知ればなるべく少なくすまそうとする。 • 値上げをすることによってごみの削減に協力的になると思う。 • 今より少し高くても良い。 • ごみ袋の値段が上がっても、各家庭で分別してごみを減量すれば負担する金額は変わらない。 • 生ごみ・雑がみは出さない、となるとごみは減る。ごみ袋を少し値上げしても良いのではないか。 • ごみをたくさん出す人が多く料金を負担するのが良いと思う。袋の大きさによって価格が違うのが良いと思う。 • ごみ袋の大きさによる価格を決める。 • 料金を値上げする代わりに雑がみ用のごみ袋を 2 枚程付けたらどうか。

	• 微妙なところだが、費用対効果が明確に説明できれば納得性はある。（ごみの税金 25 円位か？） • いきなり値段を上げるよりは、ごみ問題のＰＲをしながら徐々に値段を上げていけば市民にも切迫感が生まれるかも。 • 最初は雑がみ用のごみ袋を各家庭に配布して周知させる。 • 無理をすると地域の不均衡につながる。 • 分別の仕方、センターへ持って行ける物や時間等、ごみの出し方をもう一度市民に見直しでもらうアピールを行政にしてもらいたい。 • 行政センターに出す。 • 市民への負担。
	３．あまり効果は期待できない
	• 現状若干安い様な気がするので、少し値上げしても良いと思いますが、値上げよりも先に市民の意識の問題なのでそちらが先の様な気がします。 • 5 円位の値上げはいいと思うが。 • 料金を上げてもごみ減量の理由にはならない。 • ポイント制にして特典割引をする。
	４．効果は期待できない
	• ポイ捨てが増える。 • ごみ袋の値上げによる効果は初期だけ。 • 料金の問題ではなく、意識を高めていくことが大切。

２－３：ごみの出し方の見直し（特に資源ごみ）	
評価	
コメント	１．大いに効果が期待できる
	• 大変だとは思う。 • 行政センター以外にも資源ごみを出せる場所を作っていく。
	２．効果が期待できる
	• 各家庭での資源ごみ分別の強化。 • 現在でもかなり出し易くなっているので、継続する中で活用を周知させることでさらに効果が期待できる。

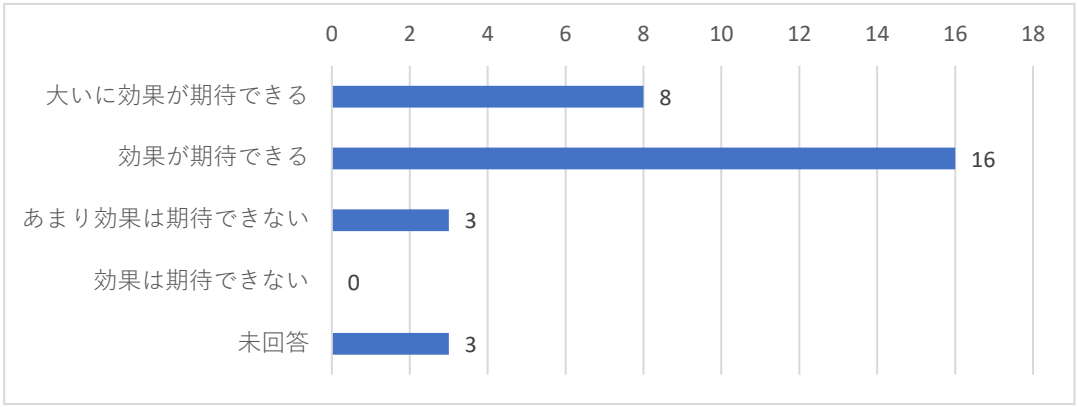
	• 市民への伝え方を考えてほしい。 • 期待できるが、市民への啓発が大切。 • どうすれば資源として使えるのか広報紙等で教えてほしい。どこに持って行っていくらで買い取ってもらえるのかも。 • 「私はこうやってごみを出しています」等の出し方エピソード等をイラスト等も使用してわかりやすく回覧板等で回す。 • 個人が出し方を選べるようなシステムがあれば良いのではないか。車に乗る人はどこにでもごみを出せるが高齢者などは個別にサポーターが回収に行く等。 • 行政センターや清掃センター等に持って行くのは、高齢者・共働き家庭・単身者等にとって大変なこと。ステーションで出せるようにしてほしい。 • 回収回数を増やす。 • ごみ袋を値上げする。 • 1袋1コインで袋が小さければそれによって料金が安くなる仕組みにする。
	3．あまり効果は期待できない
	• 1ヵ所に溜めて指定した日に町内会で持って行く。
	4．効果は期待できない

（2）コーディネーター提案以外のグッドアイデア

行政に期待する取組	• 分別が楽しくなるような工夫　（例）スーパー等に置いてあるペットボトル回収機のようなものを行政センターに置くと子どもが分別に興味を持つのではないか。 • ごみ袋の値段を考える前に現状の物で活用や効率を良くするなど先に考えた方が良い。 • 危機管理も当然であるが、やはり動けない人の為にも地域の助け合いが必要である。 • 5%減量化について、住民協議会に参加して初めて知った。机上のスローガンでなく、住民に隈なく周知するようにお願いします。
個人ができること	• 雑がみを行政センターに持って行って良い等もっと良く周知させる。 • 地区の環境保健員等が確認した事項を近所に協力を願うような体制になれば良い。依頼されれば引き受けたい。 • 広報紙やチラシ等、配られたものは全て隅から隅まで読むようにしている。
地域ができること	• 地域が一体となるような地域づくり。

３．削減（Reduce）が徹底できていない

（１）コーディネーターが提案する「行政の実施を期待する取組」について

<table>
<tr><th colspan="2">３－１　ごみ減量協力事業者制度の導入</th></tr>
<tr><td>評価</td><td> 
</td></tr>
<tr><td rowspan="4">コメント</td><td>１．大いに効果が期待できる</td></tr>
<tr><td>• 市民・企業・行政の協力でごみ減量ができると思う。
• 企業に努力をお願いするのは効果が高いと思います。スーパーのチェーン店各店舗に１ヵ所簡易包装コーナーを作るだけでも消費者の意識を変えるきっかけになるのでは。
• 具体的に削減に向けて協力的企業についてサポートをする方針は良いと思う。一種の認定制度となるかと思うが、基準づくりは大切だと思う。
• 柄付きのトレー等を使用せずに再資源化できるトレーを積極的に使用してもらう。
• わかってもらえればありがたい。
• 消費者から過剰包装している企業を報告できるホームページやメールアドレスを作る。
• 物を買う時に断ることがし難い。</td></tr>
<tr><td>２．効果が期待できる</td></tr>
<tr><td>• とりせんの揚げ物はパックではなく、袋にセルフで入れて販売している。アマゾンの過剰包装等、自分で見て買わないものは削減への意識が向かない。
• 高校、会社等の購買を行っている企業に削減協力をしてもらう。
• 子供会やスーパーで回収している所もある。
• スーパーでのペットボトルやダンボール等の回収は、もう 10 年もやっているのに知らない人が多いことにびっくり。
• 業者にメリットとなるような提案もする。　（例）良い例として広報紙等に掲載する。
• 自然に還りやすい物を利用する。
• ストローを断る勇気を持つ。</td></tr>
</table>

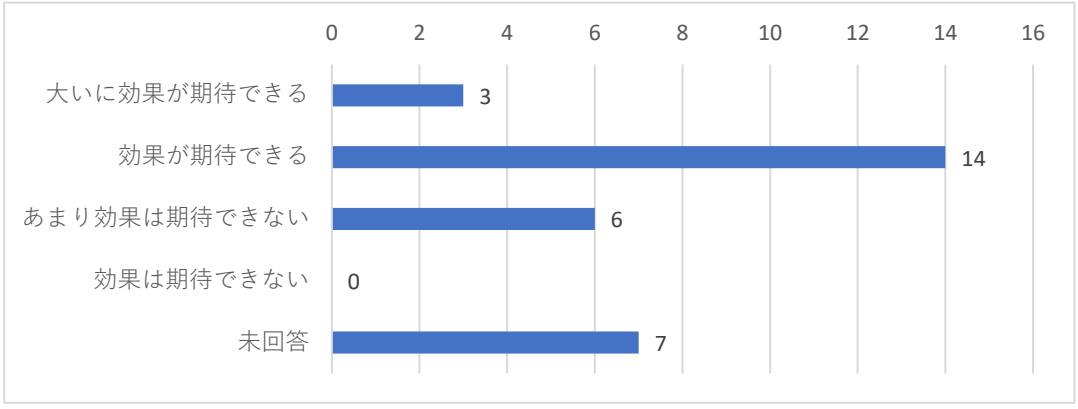
	• 袋はビニールではなく紙袋に穴が開けてあるものであれば１～２日ほど保つので良い。 • 「節電中」のように、包装軽減については「ごみ減量」「環境にやさしい」等のフレーズに言い換えて、何のためであるか消費者に説明する。 • スーパー独自の袋を使用し、袋に対して割引額を高くして消費者にメリットがあるようにする。 • 国と国民が一体になること。
	３．あまり効果は期待できない
	• 行政が入る問題ではない。各個人が気を付ければ良い。
	４．効果は期待できない

（２）コーディネーター提案以外のグッドアイデア

行政に期待する取組	• ストローをプラスチックでなくなるように太田市として考えて欲しい。 • マイ箸・器等の持参について太田市内の会社等に広めてほしい。 • 市で協力店を表彰したり、広報に載せたりする。 • 行政が思い切った政策をとる。産廃になるものを使わない。環境にやさしいものを推奨していく。
個人ができること	• プラスチックストローの代わりにマイ竿を使ったら良いのではないか。 • 市民が意識を持つこと。
地域ができること	

４．断る（Refuse）が徹底できていない

（１）コーディネーターが提案する「行政の実施を期待する取組」について

４－１：断る（Refuse）事例を収集して広報紙等で紹介する	
評価	
コメント	１．大いに効果が期待できる
	• 購入したその場で包装されている箱はいらないと断る。（靴屋で実践する）

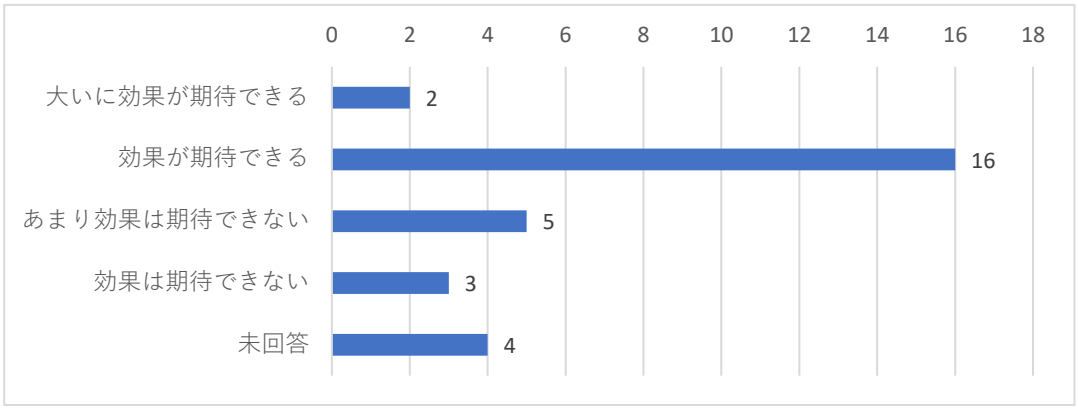
	• マイバッグを女性だけでなく男性や子どもなど様々な対象者向けにアピールする。
	2．効果が期待できる
	• 何を断るのか具体的に教えてくれるのはよいと思う。 • 店側と客側で必要かどうか確認する。 • 包装されているものや、会社や学校でもごみが大変出る。 • Ｒｅｆｕｓｅできるものを明確にすると良いと思う。　（例）ラベルの統一、プラ or 紙 • ごみポイントの導入等、レジ袋をもらわない、マイバッグを利用した場合にポイントがたまる制度。 • 時代の流れとして将来的にはそういう方向に向かうと思うのでこの活動は継続して行う必要が有る。 • そもそも広報紙が家に来ているのかわからない。
	3．あまり効果は期待できない
	• 断るのは行政に任せるのではなく、個人ができること。要らないものは迷いなく断ろう。 • 事例を知らせるのは大事な事だけど自分がそれをできるかわからない。物を買う時に断ることができない。 • 日本の文化として、断ることができないと思うので難しい。 • レジ袋有料化に期待。
	4．効果は期待できない

（2）コーディネーター提案以外のグッドアイデア

行政に期待する取組	• Reduce・Refuse と聞いて理解できる人は少ない。格好良さや流行り言葉でなく皆にわかる言葉が良い。
個人ができること	• 個々人で時間を作って口コミ、行動に移していく。 • Reduce や Refuse について理解できるように英語の勉強をやり直す。
地域ができること	• ＰＲを広げて行く。地域と共生とのコミュニケーションを作っていく。ごみ減量を心掛ける。

５．再利用（Reuse）が徹底できていない

（１）コーディネーターが提案する「行政の実施を期待する取組」について

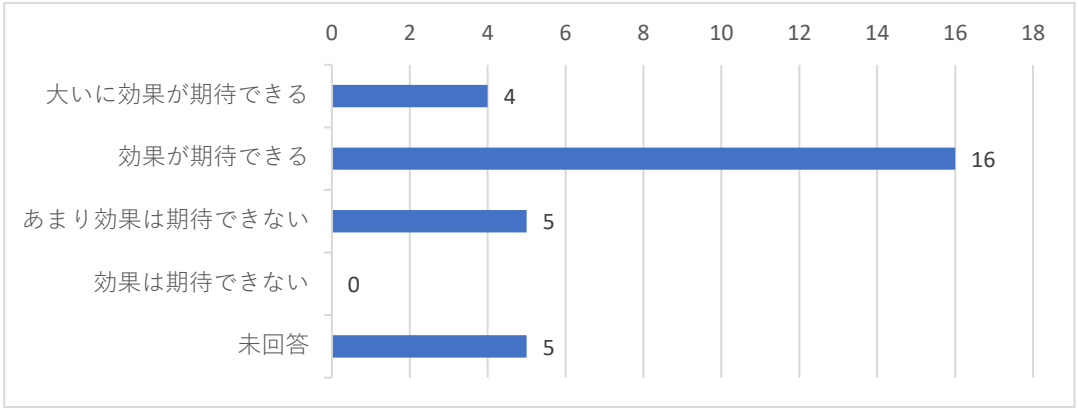
<table>
<tr><th colspan="2">再利用（Reuse）の取組が活発でない</th></tr>
<tr><td>評価</td><td> 
</td></tr>
<tr><td rowspan="8">コメント</td><td>１．大いに効果が期待できる</td></tr>
<tr><td>• 衣類等を災害に会った人々に使ってもらう。
• 私たちの地区では文化祭の時に販売している。</td></tr>
<tr><td>２．効果が期待できる</td></tr>
<tr><td>• 各中学校等でフリマをしているからなかなか難しいかもしれない。フリマだけでなくスポレク等のイベントと融合してみれば多くの人が見てくれるかもしれない。
• オークションを指定日に開く。
• 若い人は Reuse に今よりもこだわらない可能性があるので長い目で行っていく必要がある。</td></tr>
<tr><td>３．あまり効果は期待できない</td></tr>
<tr><td>• 今はフリマアプリがあるのであえてやる必要はない。</td></tr>
<tr><td>４．効果は期待できない</td></tr>
<tr><td>• 大きいことをやるのは難しい。
• 売りたいものがあっても、大きさや重さ等によって、行動に移すのが困難。</td></tr>
</table>

（２）コーディネーター提案以外のグッドアイデア

行政に期待する取組	• 洋服等を引き取り業者に買い取ってもらう。 • 清掃センターの見学をぜひ多くの人に勧めていただきたい。
個人ができること	• 古着屋で着るもの等を買ってもらう。
地域ができること	• 試しに古着屋を利用してもらう。家族で取り組めるのではないか。

６．ごみによる環境問題が発生している

（１）コーディネーターが提案する「行政の実施を期待する取組」について

<table>
<tr><th colspan="2">６－１：ごみステーションの適正管理を支援する</th></tr>
<tr><td>評価</td><td> 
</td></tr>
<tr><td rowspan="8">コメント</td><td>１．大いに効果が期待できる</td></tr>
<tr><td>• ネットをきちんとかけているのでカラス、猫も来ずいつもきれいに使っている。
• ごみステーションがきれいだときれいに使わなければと思うので良い事だと思う。</td></tr>
<tr><td>２．効果が期待できる</td></tr>
<tr><td>• 店の近くのステーションだと、散らばっていても誰が管理すればよいか決まってなさそうだから、良いと思う。不法投棄が多いことに対する対策も教えてほしい。
• カラス等に荒らされないような仕組みも必要。
• 現状、地区内のステーションは団地内の家の角々にあるため、ネットのみで対応し、当番制で管理している。特に問題ないが他地域については効果あると推察する。
• 3～6ヵ月に１回程度、ごみステーションや分別に関する集会をするように区長にお願いする。</td></tr>
<tr><td>３．あまり効果は期待できない</td></tr>
<tr><td>• ごみの減量にはつながらないが、困っている人たちがいるならいいアイデアは共有すべき。
• ネット以外は「後処理等」は個人的な活動でうまくいっている。
• 鉄のドアなどで 180 度開くようにする。</td></tr>
<tr><td>４．効果は期待できない</td></tr>
<tr><td></td></tr>
</table>

（2）コーディネーター提案以外のグッドアイデア

行政に期待する取組	• リサイクル業者に不用品の処分をお願いできることを周知する。
個人ができること	
地域ができること	

≪その他自由記載≫

- 各地区でのごみの出し方の違いが聞けておもしろかった。他の人が実践したと言っていたことは自分もやってみたいと思った。
- これからの社会様式・生活様式の変化や方向を将来を見据えて現在と将来を考えていただきたい。
- ごみの減量は市民の意識改革にあると思う。分別モデル地区を持ち回りで設定し（期間は１ヵ月くらい）市民にごみの減量への関心を持ってもらう。
  容器包装プラスチックの専用ごみ袋があっても良い。
  容器包装プラスチックの集積場は地区の集会場となっていると思うが、遠すぎる。簡単に出せるもえるごみとして出した方が近いし週２回程の回収の日に合わせられる楽な面もある。近い場所に出せる日を多くすれば分別して出すことも楽になるのではないかと考える。
  第３回会議の後、集会場でのペットボトルや容器包装プラスチックの集積状況を確認してみたが、ペットボトルの量は結構多いように見受けられたが、容器包装プラスチックについては、地区の人数の割には非常に少なく見受けられた。地区の 1/10 以下の世帯が利用している程度であった。
- 色々なアイデア・意見等は取りまとめて市内・市民に徹底していく方針はどうか？市→区長→環境委員→組長→市民へと実施を促す。広報紙等で部分的に紹介する。
- 減量の意識はいっぱいありますが、皆さんのレベルと意見のスピードについていくのがやっとで、参加するだけでやっとでした。多くの人が参加できたら良いと思う。
- 意識付けが必要。先ずは雑がみについての広告を各家庭に配布してほしい。できれば雑がみ用ごみ袋を作成して２～３枚無料配布をセットにして配布すると良い。雑がみのステーション回収をしてほしい。
  ごみポイント制度として、エコバッグを持ち込んだ人にポイントをつける。
- ごみ袋の値段が高いか安いかではなく「ごみを減らすことに結び付ける方法としては」世帯の人数によって枚数を決めて「指定ごみ袋の購入券」を配布し、その「引換券」で指定のごみ袋を購入し、購入券以上の枚数を使う場合は引換券なし

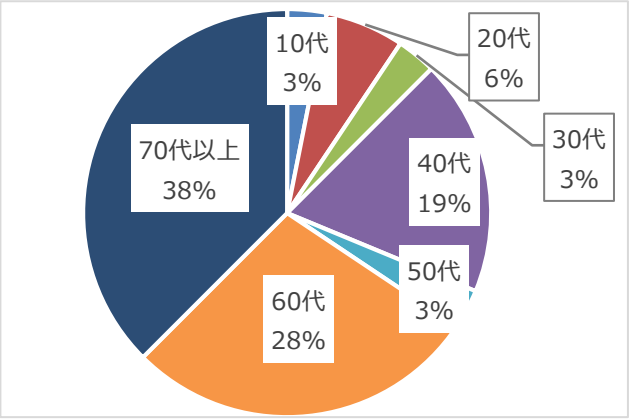
でも買えるが今の価格の倍の「券なし価格」でごみ袋の値段設定することにより「生ごみと資源ごみ」の分別も進み、ごみの減量化に結び付くのではないか。

- ごみの分別で雑がみを分けることを家でもやるようにしました。ごみを週２回出していたのが週１回大きいサイズのごみ袋、または、今までより小さい袋２回になりました。
- ごみを削減するメリットがあると市民から協力を得やすい。
  ごみ処理センターの見学は、収集しているものなどを知る機会となればよい。
  アプリは、ごみの出し方、出す日、分別を細かく教えてくれて、ポイントなどが付いてごみ袋等がもらえると良い。
- 雑がみ用の袋を配布する場合はポリ袋でなく紙の袋が良い。
  たまたま私の住む地域は恵まれていると感じました。モデル地区になれそう。40年同じところに住んでいるので当たり前と思って過ごしてきました。住民協議会に参加して色々な人の意見を聞かなければ知らなかったことです。
  第２～４回の協議を通して、毎回同じような意見が出ている。この件でのディスカッションは２回くらいで良いと感じた。これだけの人数でこれだけの時間を費やして何か変わるのだろうか。
- ごみステーションにプラとごみを一緒に捨てられるようにしてほしい。最初から太田市全域では難しいだろうから、区長がやりたいといった地域をモデル地域として、実施する。メリットは同じ日にごみとして出すものからプラをわけることで、ごみが減り、回収の手間が少なく済み、家庭においてもごみ袋の消費量が減ること。デメリットはごみとプラが混ざってしまう可能性があること。プラＢＯＸを設置する等することで改善できると思う。

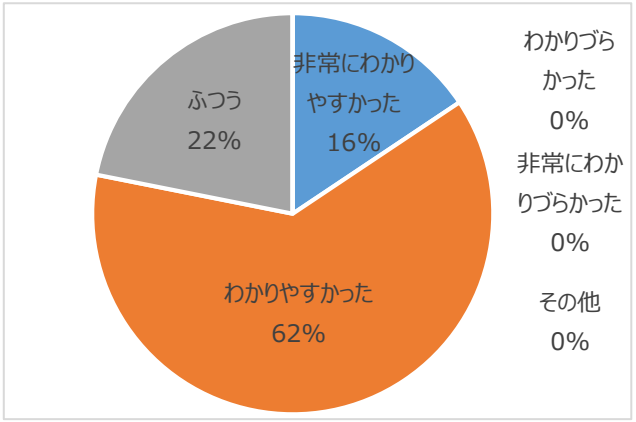
８．付録：アンケート結果

第１回及び第５回の住民協議会にて実施したアンケートの結果を下記に示す。

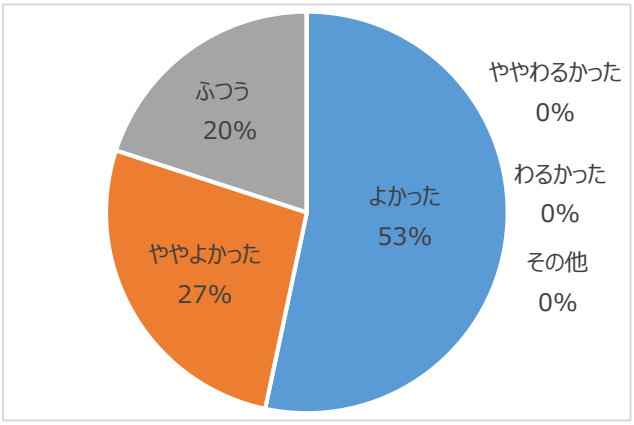
・　回答者年齢（第１回）



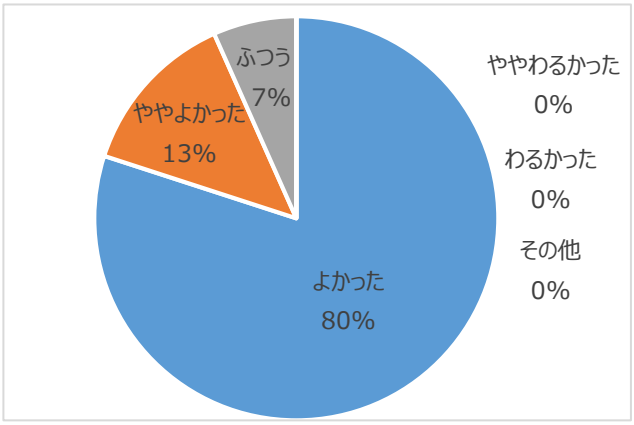
・　テーマ（ごみの減量化）の説明について、どう思われましたか。（第１回）



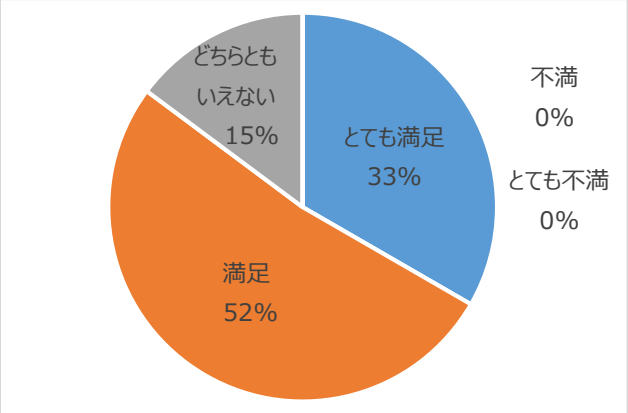
・　テーマ（ごみの減量化）の説明資料について、どう思われましたか。（第１回）



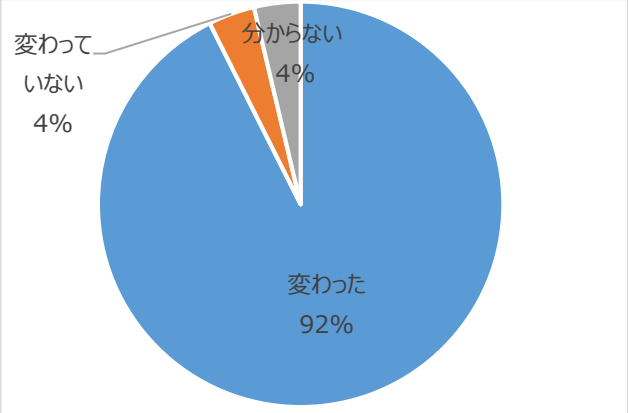
・　コーディネーター、委員（市民）の協議について、どう思われましたか。（第１回）



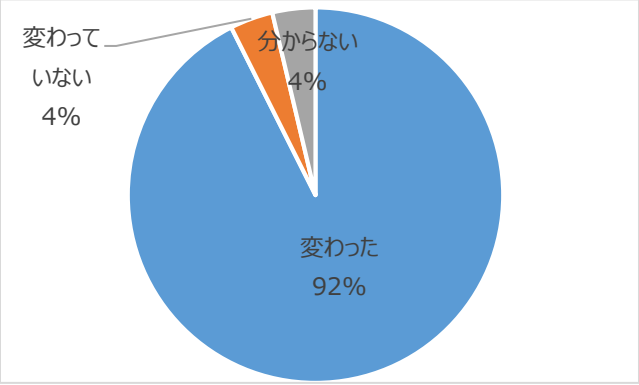
・　住民協議会に参加してみていかがでしたか。（第５回）



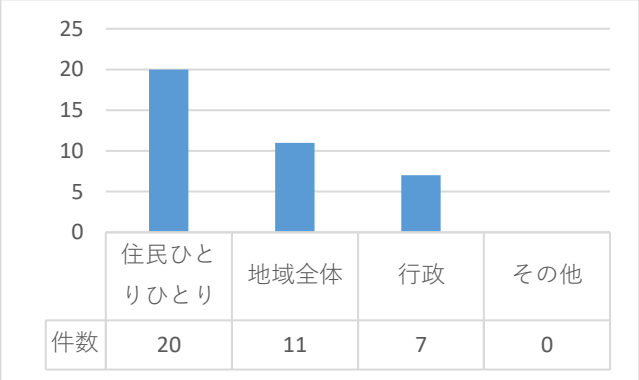
・　ごみ減量化について意識の変化はありましたか。（第５回）



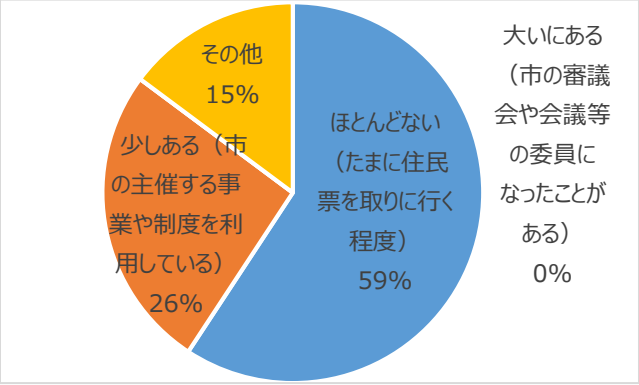
・　ごみ減量化について行動の変化はありましたか。（第５回）



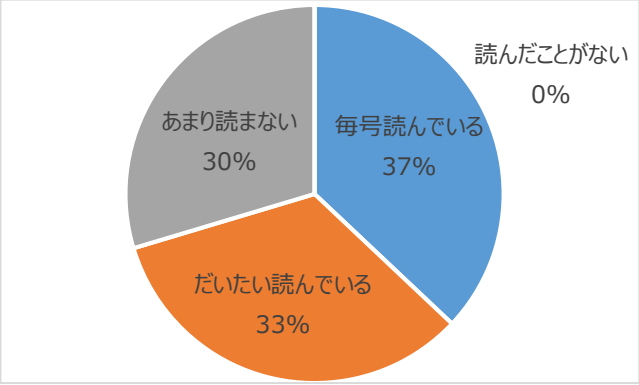
・　ごみの減量化を図るため次のうち特に主体的に取り組むべきだと思う対象はだれか。（第５回）



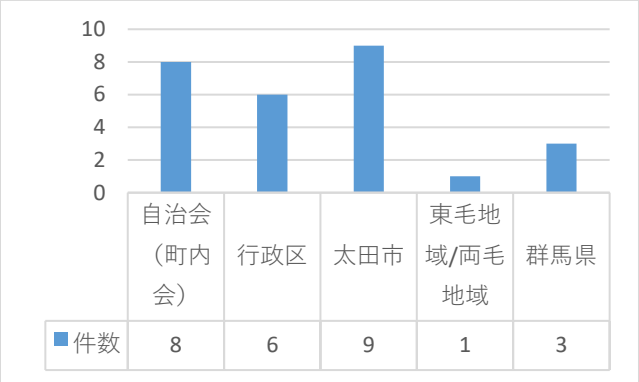
・　住民協議会に参加する以前に太田市役所とどの程度関わりがありましたか。（第５回）



・　広報おおたを読んでいますか。（第５回）



・　日常生活でもっとも意識している地域の単位を１つ選んでください。（第５回）



＜「太田市役所との関わり」の具体事例＞

・　会社関係で年数回市長他関係者の皆さんとお会いする機会がありました。引退後はボランティアなどで少し関わっています。

・　太田市に引っ越して４年になりますが、今回の住民協議会で初めて来庁しました。手続等は行政センターなどで済ませていました。

＜住民協議会に参加したことによる意識の変化の具体事例＞

- 現状が厳しい状態だと理解した。
- 灰や煙の有害物質は東北で処理してもらっていること。よりごみ減量を心掛けたい。
- ごみについて考えるようになった。
- 自分で毎日のごみに対して気持ちが変わった。
- これからはきちんと分別していきます。
- ごみを分別する。
- 分別するようになった。
- 分別の仕方を今よりも気づけるようになった。
- 今までも分別をしていたが、広報紙の情報をよりよく見るようになり、正しく分別できるようになった。
- 日々の生活の中でごみを減らすように努めるようになりました。
- ごみの減量に気を付けるとともにプラごみ、雑がみを分別するようになった。
- ごみをもえるごみとして見なくなった。減らすことに心がけるようになった。
- 資源ごみを意識するようになった。
- ごみとして捨てる部分は少なくて、大部分は資源という意識をするようになりました。
- 雑がみ自体を初めて知った。

- 雑がみに関しては目から鱗でした。
- 雑がみの扱い方、ごみの減量化のマスコミ報道に関心を持つようになった。
- 雑がみの分別、家族の意識の変化。
- 非常に変わりました。家族の中でもリサイクルへの分別が徹底されました。次は市民ベースですね。
- ごみが少し減った。
- 分別することでどれだけごみが減ったかを意識するようになった。

＜住民協議会に参加したことによる行動の変化の具体事例＞

- 分別すること。
- 分別に気を付けるようになった。
- 分別について細かくするようになった。
- 容器包装プラスチックを中心に分別するようになった。
- 容器包装プラスチックや雑がみを分けることにより少しずつ変化してきたような気がします。
- 雑がみの分別、ごみの意識。
- 雑がみを分けるようになった。
- 雑がみ分別で家庭内のごみが半分になった。考えて捨てるようになった。
- 生ごみに対しては今まで通りですが、雑がみに関して変化はありました。
- 分別によって約 1/3 になりました。プラと雑がみは 90%以上リサイクルへ。残りは生ごみで課題です。
- 生ごみは少しずつ減らしていくように努力。
- 生ごみ処理機を買う予定です。
- ごみを自分で出す回数が増えた。
- ごみステーションへ行き、指定日以外に出す人がいるので言葉をかけるようにしている。
- ごみステーションだけではなく、スーパー、行政センター等を活用するようになった。
- ごみの分別を行うようになった。投捨てごみが非常に気になるようになった。
- 会社で歩くたびに下とか周りを気にするようになった。
- 周りの人に分別の必要性・意味を話すようになりました。
- 学習したことを自分の子供世代にも伝えました。
- マイバッグを使うようになった。
- なるべく物を買わない。
- ごみ袋を使う数が減った。

＜住民協議会全体の感想や太田市について＞

- このままでいい。
- コーディネーターの方向付けがよく、会議がスムーズにまとまり良かったと思います。今の運営方法でいいと思います。
- 土曜日の開催について、一般に休日扱いは多くなっているが、100%ではない。だれでも参加できる日曜日としたほうが参加しやすいのではないか。
- 高校生は土曜日に学校があることが多く、参加が難しいという意見があった。
- もっと話し合う時間が欲しかった。
- もっと時間をかけるといいと思う。
- もっと時間が欲しかったです。
- テーマに沿った効率的な話し合いも必要だが、フリーな時間もあってよいように思う。
- 1～2 時間の話合いを 5 回に分けてしまうと少しマンネリ化してしまう。長時間での話し合いを 2～3 回でやった方がいい。
- テーマによってかとは思うが、今回のテーマでいうと協議テーマのカテゴリーについてあらかじめ実体験をしてもらう。そうすることによって、より内容の濃い意見が出ると思います。協議会の回数も増やしていいと思います。
- テーマが初めから分かっていたら参加していたかどうか疑問です。一つのことにダラダラと時間の費やしすぎたように感じました。もっとスピーディに進めた方がよいかと。参加することによって知識は得られ、タメになったと思いますが、楽しいと感じたことはなかったです。その点で改善されたらもっと楽しく生き生きと参加できたのではと感じます。同じ条件（ごみ収集に関して）の下でのディスカッションではなかったので、かみ合わない無意味な話し合いが続いたのは残念。「私の所では…」の報告が多く、改善策に結び付くまでには…。
- 地区をまとめてほしいと思います。
- 協議会自体は月一回の意見交換および吸い上げの場として制度は良いと思いますが、できれば月々の学んだことの実践など具体的なモニターやそのフィードバックがメール、SNS で配信されると次回会議でより具体的な会話ができるのではないか。
- 同じテーマで来年も再来年もやっていくとごみに関する興味が多くの人に広がっていくと思う。
- 自分もそうでしたが、群馬県がワーストであることもリサイクル品が 30%を占めることなど知りませんでした。知ること/見える化が必要です。そのためには個が全体・行政へ、行政から個人へインタラクティブな活動が必要です。
- 今回とても貴重な体験をさせていただきありがとうございました。市役所職員の方々、コーディネーターの方々お疲れ様でした。

９．付録：改善提案シート

改善提案シート

第　　分科会　　名前：

あなたが考える現状の課題	その課題を解決する方法
＜例＞ 公園が利用されていない	（住民の役割） ・個人として 知らない公園が多いので把握する ・地域として 草刈りなど、公園整備のサポートをする 休憩用のベンチを提供する
	（行政の役割） 街の中にある遊び場のマップを作成する
	（その他）

あなたが考える現状の課題	その課題を解決する方法
	（住民の役割） ・個人としてできること ・地域としてできること
	（行政の役割）
	（その他）